



2021年4月1日に開学20周年を迎えました

長岡大学開学20周年を迎えて



学校法人中越学園 理事長
長岡大学 学長
村山 光博

2001(平成13)年4月、それまでの長岡短期大学を改組転換することで4年制大学として開学した長岡大学は、おかげさまで20周年を迎えることができました。これまでお力添えをいただいた関係者の皆様に謹んで御礼申し上げます。

これまでの20年の道のりを振り返ってみると、様々な困難を乗り越えながら継続的に大学改革に取り組むことで、この地域における本学の存在意義を少しずつ高めてきたように思います。また、建学の精神である「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」、「地域社会に貢献し得る人材の育成」の下、経済・経営分野の専門知識と社会人基礎力を身に付けた多くの卒業生を地域社会に送り出して参りました。この20年の歴史を築いてきた主役はやはり卒業生

を含む本学の学生と教職員の皆さんですが、そこにはいつも本学の取り組みにご理解をいただき、手を差し伸べてくださいました地域の方々のご協力がありました。この場をお借りして御礼申し上げます。

本来であれば、関係者の皆様への感謝の気持ちを込めて盛大に開学20周年をお祝いしたいところですが、未だに新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の収束が見えない中、誠に残念ながら主な20周年事業を2026(令和8)年に予定される25周年へ移行させていただくことにいたしました。なお、このたびは20周年を記念して長岡悠久会(長岡大学・長岡短期大学同窓会)から大学の校旗をご寄贈いただきました。これから式典や行事の際に掲げ、大切に使って参ります。長岡悠久会の皆様には、深く感謝申し上げますとともに、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。

本学はこれまで培ってきた歴史と伝統を継承し、これからも「地域とともに地域の未来をつくる大学」を目指して教職員一同全力で取り組んで参ります。今後とも皆様のご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

時代に負けず学生がチャレンジしやすい大学に



長岡悠久会(同窓会)会長
覚張 良太 (平成20年3月卒業)

長岡大学、開学20周年おめでとうございます。

先日、学生による地域活性化プログラム成果発表会の場にお邪魔させていただきましたが、あのような場で研究発表をする機会が私が在籍していたときにはなかなかなかったため、学生の皆さんの立派な姿を拝見できて大変感動させていただきました。

そのような中、私が思うことは、まだまだ世間的にも難しいことが多い情勢とは思いますが、大学の先生方、職員の方

々々にも学生の皆さんの色々なチャレンジ、意欲ある行動にはどんどん背中を押してあげてほしいと思っております。

私事ではありますがこの約2年間、大学生、高校生問わず楽しみにしていた行事、滅多に無いチャンスを目の前にその機会を奪われて泣いている若者の姿を多数見てきました。やはり、若者たちには辛い経験よりも楽しい経験をたくさんしてほしいです。

学生の皆さんには勉学でも課外活動でも学外での活動でも、この時代だからこそ情熱を注げるものを見つけたときには臆することなく行動を起こし、チャレンジしてほしいと思います。

私も在学中たくさん教職員の方々に背中を押していただき、本当に感謝をしています。長岡大学にはこれからも、そのような大学であり続けてほしいと願っております。



長岡大学への期待やメッセージ

長岡大学開学20周年記念祝辞

長岡市長
磯田 達伸



長岡大学の開学20周年を心からお祝い申し上げます。

貴学は、「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」「地域社会に貢献する人材の育成」という建学の精神の下、開学以来、実践的な教育に取り組まれてきました。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、さまざまな活動が制限されながらも、地域の課題解決や創造価値を担う専門的能力を身につけた「創造人材」の育成を推進されてきました。これまで多くの卒業生を社会に送り出し、地域の活性化、発展に多大なるご貢献をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

長岡市は、10年後、20年後を見据え、将来を担う若者たちの個性と能力が最大限に発揮できるまちづくりを進めています。学生の皆さんは、今しかできないこと、チャレンジしてみたいことに積極的に挑戦し、多くの経験を積んだ上で、近い将来、それぞれの個性を活かしてビジネスの現場など、さまざまなフィールドで活躍していただきたいと思っております。

結びに、長岡大学のますますのご発展と学生の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いのことばとします。

開学20周年に寄せて

長岡商工会議所 会頭
大原 興人



長岡大学の開学20周年おめでとうございます。

貴大学におかれましては、前身の長岡短期大学も合わせますと半世紀の長きにわたり、地域社会に有為な人材を輩出されていることに、心より敬意を表します。建学以来の伝統である実学実践教育による人材育成に今後も期待しております。

企業経営においては、この20年で取り巻く環境が大きく変化いたしました。高速通信網が社会基盤として整備されたことで、デジタル社会が猛スピードで進歩し、今後のポストコロナの時代は、デジタルトランスフォーメーション(DX)の加速に対応したデジタル技術の活用による経営力の向上が不可欠となっております。

また近年では、ESG経営、SDGsという言葉で表されるように、従来型の企業価値の向上に加えて、持続可能な社会の実現に向けた行動がより求められております。

新しい時代を牽引するのは若い力です。学生の皆さんには、時代の変化をチャンスと考えて、柔軟な着想と大胆な行動力で社会経済の発展にご貢献されますことを祈念しております。

当所といたしましても、関係機関との連携を深め、地域企業の飛躍に向けて積極的に行動してまいりたいと存じますので、更なるご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

長岡大学開学20周年記念事業「校旗贈呈式」が行われました

2021年12月4日(土)ホテルニューオータニ長岡 NCホールにて、長岡大学開学20周年記念事業「校旗贈呈式」が開催されました。

長岡悠久会(長岡大学および長岡短期大学の同窓会)より立派な校旗が贈呈され、覚張良太会長よりご祝辞をいただきました。村山光博学長からは「長岡短期大学と合わせて50年の歴史の重みを感じました。この旗を大切に使いながら大学の歴史を重ねてまいります。」と謝辞が述べられました。



20年の歩み

周年	年度	月日	事項	学長	理事長
0	2001 (平成 13)	4.1	長岡大学 産業経営学部産業経営学科 開学 (入学定員 200 人) 中西貞夫 初代学長に就任	中西貞夫	中山信一
		9.25	長岡技術科学大学と単位互換協定締結		
		10.16	長岡造形大学と単位互換協定締結		
1	2002 (平成 14)	7月	長岡短期大学を廃止		
2	2003 (平成 15)	4.1	品川英夫 中越学園第4代理事長に就任		品川英夫
3	2004 (平成 16)	4.1	原陽一郎 第2代学長に就任	原陽一郎	
		10.20	「大学改革の基本方針」を発表		
		10.23	新潟県中越地震発生		
4	2005 (平成 17)	4.1	産業経営学部産業経営学科の入学定員変更 (入学定員 160 人) 長岡商工会議所と事業連携に関する覚書締結		
		12.22	北越銀行と産学連携協力に関する協定締結		
		7月	文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に「産学融合型専門人材開発プログラム－長岡方式－」(平成 18～20 年度) が選定される。		
6	2007 (平成 19)	4.1	産業経営学部を経済経営学部へ改称 産業経営学科の募集を停止し、環境経済学科と人間経営学科を開設 (各学科入学定員 80 人)		
		7.16	新潟県中越沖地震発生		
		7月	文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に「学生による地域活性化提案プログラム－政策対応型専門人材の育成－」(平成 19～21 年度) が選定される。 文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に「長岡地域産業活性化のための MOT 教育『イノベーション人材養成プログラム』」(平成 19～21 年度) が選定される。		
		10.4	長岡市との連携に関する協定締結		
		11.28	国民金融生活公庫長岡支店と産学連携の協力推進に関する覚書締結		
		1.15	社団法人全国信用組合中央会と大学教育に関する相互協力についての協定締結		
		7月	文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生支援推進プログラムに「学生の3つの就職力一体形成支援プログラム」(平成 21～23 年度) が選定される。		
10	2011 (平成 23)	3月	産業経営学部産業経営学科を廃止		
		3.30	長岡大学体育館棟改築工事地鎮祭		
11	2012 (平成 24)	4.1	内藤敏樹 第3代学長に就任	内藤敏樹	
		1月	長岡大学体育館棟 (3号館) 竣工		
12	2013 (平成 25)	8月	文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に「長岡地域<創造人材>養成プログラム」(平成 25～29 年度) が選定される。		
		9.20	長岡大学開学 10 周年記念事業として『斎藤由松の生涯と斎藤女学館のあゆみ』を出版 長岡大学開学 10 周年記念事業「長岡大学体育館棟竣工記念式典」を開催		
		4.1	土田和弘 中越学園第5代理事長に就任 経済経営学部環境経済学科・人間経営学科の募集を停止し、経済経営学科を開設 (入学定員 80 人)		
14	2015 (平成 27)	8.4	内藤敏樹学長逝去	土田和弘	
		10.1	土田和弘 学長事務取扱者に就任		
		3.15	文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に選定された「『ひと・まち・しごと』創生を循環させる NIIGATA 人材の育成と定着」の参加大学となる。		
15	2016 (平成 28)	4.1	村山光博 第4代学長に就任	村山光博	
		3.7	(公財)日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価で大学評価基準を満たしていると認定		
16	2017 (平成 29)	4.1	経済経営学部経済経営学科の入学定員変更 (入学定員 100 人)		
		1.26	小千谷商工会議所との事業連携に関する覚書締結 見附商工会との事業連携に関する覚書締結		
		5月	経済経営学部人間経営学科を廃止		
17	2018 (平成 30)	9.11	上越教育大学との連携・協力に関する協定締結		
		11.1	長岡大学同窓会と長岡短期大学同窓会が合併し、「長岡悠久会」が発足		
18	2019 (令和元)	3.1	学内に新型コロナウイルス対策本部会議を設置		
		5月	経済経営学部環境経済学科を廃止		
19	2020 (令和2)	5月	経済経営学部環境経済学科を廃止		

長岡大学第2期中期計画(2022~2026年度)の概要

～地域とともに地域の未来をつくる大学を目指して～

2017年度から稼働した長岡大学第1期中期計画では、本学が「地域社会の発展に貢献する大学」となることを目指し、2021年度までの5か年で重点的に取り組む事項を盛り込んで、全学的に推進して参りました。この中期計画の達成に向けては、学内の各委員会でも年度ごとに具体的な行動内容を設定し、四半期ごとの進捗状況の確認、年度末の総括及び次年度の計画への反映といったPDCAサイクルで、継続的に改善を図りました。この5年間の取り組みは、本学における内部質保証システムの基盤となっていると言えます。

第2期中期計画(2022~2026年度)においては、「地域とともに地域の未来をつくる大学」を目指し、本計画に掲げた下記の重点項目を役員と教職員が共有するとともに、各々の役割において具体的な行動に反映して参ります。

第2期中期計画の重点項目

1 カリキュラム・教学改革



- カリキュラムの継続的な点検と改善
- 教育力の向上
- 単位制度の実質化
- 学生の学修意欲の向上
- 図書館の利用促進
- 教育のICT化

2 学生支援



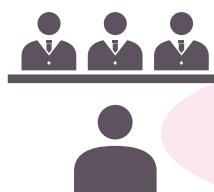
- 課外活動を通じた学生の社会人基礎力の向上
- 学生の自主的活動に対する支援
- 奨学金制度による学生への経済的支援
- 充実した大学生活の実現に向けた支援

3 キャリア支援



- 就職及び進路について早期からの意識づけ
- 就職マッチングの徹底による就職後のミスマッチ防止
- 留学生の日本での就職を支援
- 本学卒業生の入社後のフォローアップ

4 学生募集・広報



- 志願者数の増加
- 入学定員の充足
- 適切な入学者選抜の実施
- 留学生入試の実施方針の策定

5 地域連携



- 地域志向研究の推進と地域への研究成果の還元
- 関係諸機関との連携の推進
- 地域活性化への貢献
- リカレント教育(社会人学び直し)の推進

6 国際交流



- 優れた留学生の受入れ
- 留学生の充実した大学生活に向けた支援
- グローバル社会に向けた意識向上

7 組織運営



- 組織運営体制の強化
- 外部研究資金獲得の促進
- 研究倫理教育及びコンプライアンス教育の徹底
- 危機管理体制の強化

8 業務運営



- 業務効率化の推進
- 業務のICT化
- まちの駅としての施設開放
- 大学設立25周年記念事業の企画・実施

9 人事政策



- 教職員人事制度の見直し
- 教職員の資質・能力向上

10 内部質保証・情報公開



- 自己点検・評価の実施
- 情報公開の推進
- IR(Institutional Research)の推進

「長岡大学研究論叢」を発行しました

大学開学20周年事業の目玉の一つとして、専任教員の研究成果を「長岡大学研究論叢」という出版物に収めることができました。20年という歴史を通して、教育と研究において蓄積してきた「知」を、本学が最も重視する地域社会への貢献という目標の下で著したものです。なお、本誌は本学の学術情報ポータルサイトからご覧いただけます。

長岡大学附属図書館長 教授 権 五景

